

第1章 事例研究の方法

この章では、事例研究の進め方について説明する。

1. 事例研究の対象となる列車の選定方法

この研究では、朝ラッシュのピーク時に走行する『通勤ライナー』が、一般列車の混雑率にどの程度影響を与えたかについて調査する。そこで、今回は東京都23区内の駅に8:00から8:30に到着する『通勤ライナー』を調査の対象とすることにした。

この条件に当てはまる列車はJR東日本の特急しおさい4号、ときわ58号、湘南ライナー6号、おはようライナー新宿24号、および東武鉄道のりょうもう6号の計5本存在した。このうち湘南ライナー6号とおはようライナー新宿24号については、途中で通常の旅客列車が経由しない貨物線を通るなど複雑な運行体系をとるため調査対象からは外し、残りの3本の列車について調査することにした。

2. 調査の方法

調査対象となる列車の前後2本以上の一般列車の混雑を、国土交通省が混雑率調査を行う際に主要区間としている区間が始まる手前の駅で調査する。この主要区間が、その路線の最混雑区間であると思われるからだ。ただし具体的な混雑率を計測するのは大変困難である。そこで今回は対象となる駅からの乗降人員数、および列車の停車時間を計測することで、列車の混雑度合いを簡易的に調べることにした。具体的には、階段から近すぎず遠すぎない平均的な混雑度と思われる号車のある1つのドアを調査対象とし、そのドアから乗降した人数を計測する。また列車の停車時間(ドアが開き始めてから閉まり終わるまでの時間)も計測し、どの程度乗降に時間がかかったかを調べることで、列車の混雑度を確認する助けとなるようにした。

3, 調査結果の分析方法

調査結果の、主に乗車人員と停車時間から、第1部第6章で立てた仮説がそれぞれの事例で成り立っているか分析する。